

株式会社 **アルトナー**

第47期 事業のご報告【中間】

2008年2月1日～2008年7月31日

— Create the Future —

ARTNER



お客様と一体となり、
第一線で活躍するエンジニアを
私たちは強力にサポートしています。

代表取締役社長 関口 相三

《社是》

- 一、精神の追求
- 一、智識の追求
- 一、創造の追求

事に処し選ぶべき道に確固たる決断を要するときは、
すべからず冷静を第一とし、如何なることよりも、
常に基本にかえることを考えよ

《経営理念》

エンジニアサポートカンパニー

～私達は技術者の夢をサポートします～

人をつくり 技術を育み
技術者を通じ社会に貢献し
全従業員の幸せと会社の反映を目指します

Q. 第47期の上期業績の概要について
お聞かせください。

第47期の上期のわが国経済は、原油価格などの原材料高騰やサブプライムローン問題を背景とした米国経済の先行き不透明感がますます深刻化するなか、企業収益予想の見直しに伴う設備投資の減少や新規学卒採用の抑制、個人消費の停滞等により、景気の動向は不透明感が強まりました。

しかし、派遣業界においては、当社の主要顧客である電気機器・精密機械・輸送用機器関連企業からの設計開発に関する人材需要の抑制などは見受けられませんでした。

このような状況のもと、当社は顧客企業のニーズに対応するため、引き続き積極的に大量の新

卒採用と中途採用を実施し、技術者の確保に努めたほか、技術者教育の強化も実施し、技術者としての付加価値を高めることで派遣単価のアップに努め、潜在ニーズのある新規優良顧客の開拓にも着手しました。

その結果、派遣技術者数が増加し、既存技術者のスキル向上に伴う派遣単価もアップしたため、売上高は2,681百万円、営業利益173百万円、経常利益175百万円、中間純利益99百万円になりました。

Q. 経営理念にある
「エンジニアサポートカンパニー」の
意義についてご説明ください。

当社の社会的存在意義は「エンジニアを育

成し、エンジニアのキャリアサポートを行うこと」であり、それが使命であると考えています。エンジニアを育てることによって、結果的に当社にそのメリットが反映されます。このエンジニアをサポートしていくことが、当社の経営理念であると捉えています。

エンジニア育成の周辺インフラの整備としては、まだまだ必要なものもありますが、「エンジニアとしての実戦力を磨くためにアルトナーという会社を選択していただく。そこでエンジニアとして必要な人間力と専門スキルの向上を目指す。私どもが『T字型の教育カリキュラム』と呼んでいるもののとおり、アルトナーという会社の中で実戦力を早期に身につけていただく」。これが魅力となり、ファンになって入社してくる人が増えています。

Q. 高度な技術サービスを担う 「T字型スペシャリスト教育システム」、 および御社の強みの一つ「産学連携」 についてお聞かせください。

T字型というのは、私どもは「木」にたとえています。タテ軸は「幹」で、幹の下には「根」があります。ヨコ軸は「枝葉」です。大木に最も重要なのは「根」です。タテ軸は「人間力」、ヨコ軸は「専門スキル」を表わします。もちろん、時代によって、タテの強化が必要な時代もあれば、ヨコの強化が必要な場合もありますし、双方均一に必要な時代もあります。「根」は究極的には「考え方」です。物事をどのように捉えて自分自身が消化していくのか。木は根から全ての栄養分を吸収し、幹が育ち枝葉が繁ります。枝葉の部分がしっかりしていれば、会社が提供する専門的な教育材料を吸収できるのです。

産学連携についてですが、当社は「若手エンジニアの教育」というテーマに基づき、多くの大学を含めた教育機関や教育関係者と緊密に連携しています。情報交換のみならず、当社の教育システムを教育学会などに発表し、当社の認知度を高める施策も続けています。当社ではいろいろな業界のメーカーと取引関係があるため、多様なプロジェクトの選択も可能となりますし、連携している大学に臨時講師を派遣し、講義を行うこともあります。

Q. 目指しておられる 「総合テクニカルアウトソーシング企業」 の具体的な姿についてご説明ください。

お客様のニーズや雇用関係がこの先、中長期的に大きく変わると考えています。その変化を柔軟に捉えて、当社として常にどのような事業体であるべきかを追求していきます。当社は技術者派遣

事業を主たる事業としていますが、今後は、お客様のニーズがそれ以外のサービスにも拡大することを想定し、エンジニアとして高水準の各種サポート、サービスをお客様に提供する準備が必須であると考えています。

現時点では技術者派遣事業としてビジネスが成り立っているのだからこのままで良い、というわけではありません。理念は維持しつつ、社会の変化に柔軟に対応し、どのように事業を取り込んでいくのか、作り上げていくのかということが重要だと考えています。

本年5月に請負部門が順調に立ち上がり、さらに来年に向けてその請負事業のうちのLSIグループをさらに拡張する計画であり、現在、準備を進めている最中です。「請負事業」が軌道に乗れば、能動的に、戦略的エリアでの仕事が創出できるのです。世の中は地元指向ですので、うまく請負を機能させ、相乗的にそのエリアで当社の仕事ができる拠点を作る、ということも長期的な施策として検討しています。

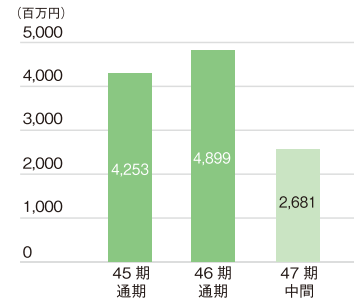
Q. 最後に、株主の皆様へのメッセージを お願いします。

私どもは、労働者派遣法を踏まえたこれまで以上のコンプライアンスの遵守を心がけるとともに、確たる経営理念のもと、業績向上に努めることがステークホルダーの皆様から期待されている「アルトナーの経営」であると認識しています。

私どもは、今後とも「反映」と安定的な株主還元、配当を実行していきたいと考えておりますので、株主・投資家の皆様には、引き続き当社の事業展開を温かく見守っていただき、これまで同様、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

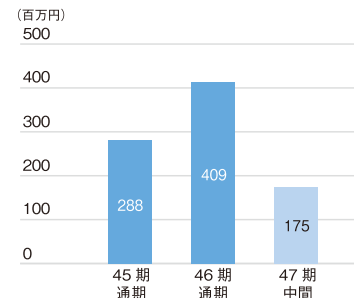
売上高

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示



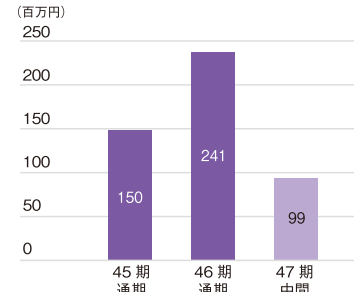
経常利益

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示



当期純利益

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示



財務諸表

※百万円未満を切り捨てています。

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当中間期 平成20年7月31日現在	前期 平成20年1月31日現在
【資産の部】		
流動資産	1,359	1,455
固定資産	299	319
有形固定資産	100	103
無形固定資産	31	35
投資その他の資産	167	180
資産合計	1,658	1,774
【負債の部】		
流動負債	629	661
固定負債	91	195
負債合計	721	857
【純資産の部】		
株主資本	937	917
資本金	237	237
資本剰余金	167	167
利益剰余金	533	513
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	△0	△0
其他有価証券評価差額金	△0	△0
純資産合計	937	917
負債純資産合計	1,658	1,774

ポイント!

当中間会計期間末における総資産は、営業収入の増加により売掛金が増加したものの、社債の償還、借入金の返済等により現金及び預金が減少したことで、前期末比で115百万円減少しました。負債は社債の償還等により、前期末比で136百万円減少しました。純資産は、繰越利益剰余金等の増加により、前期末比で20百万円増加しました。

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当中間期 平成20年2月 1 日から 平成20年7月31日まで	前期 平成19年2月 1 日から 平成20年1月31日まで
売上高	2,681	4,899
売上原価	1,848	3,437
売上総利益	833	1,461
販売費及び一般管理費	659	1,008
営業利益	173	452
営業外収益	5	7
営業外費用	2	50
経常利益	175	409
特別利益	—	12
特別損失	0	1
税引前中間(当期)純利益	175	420
法人税、住民税及び事業税	70	165
法人税等調整額	5	13
中間(当期)純利益	99	241

ポイント!

売上高は、派遣技術者の増加や、人材教育の実践に伴い既存社員の付加価値向上を図ったことによる派遣単価アップ等の結果、2,681百万円となりました。売上原価は、技術系社員増加に伴う人件費、賃借料の増加により、1,848百万円となりました。また、販売費及び一般管理費は、技術系新規卒者の研修期間中の経費増加、管理部門の人員増加、新規顧客開拓強化の為の営業力強化等の増加により659百万円となりました。これらの結果、営業利益は、173百万円、経常利益は、175百万円、中間純利益は、99百万円となりました。

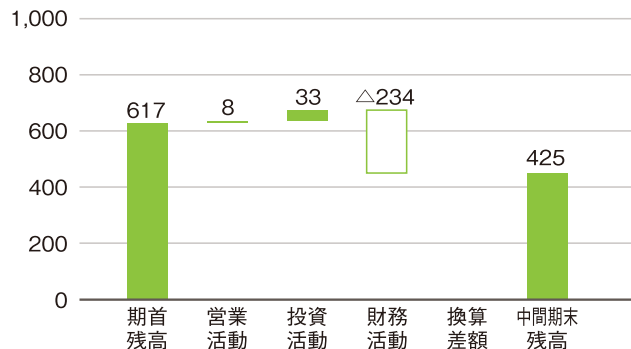
キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当中間期 平成20年2月 1 日から 平成20年7月31日まで	前期 平成19年2月 1 日から 平成20年1月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8	213
投資活動によるキャッシュ・フロー	33	△70
財務活動によるキャッシュ・フロー	△234	△187
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額	△191	△44
現金及び現金同等物の期首残高	617	661
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	425	617

キャッシュ・フロー推移グラフ

(単位:百万円)



ポイント!

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の期末残高は、425百万円と前期末比で191百万円の減少となりました。営業活動の結果、得られた資金の主な要因は、税引前中間純利益、売上債権の増加、法人税等の支払い、未払金

の増加によるものです。投資活動の結果、得られた資金の主な要因は、固定性預金の払戻による収入によるものです。財務活動の結果、使用した資金の主な要因は、社債の償還による支出、配当金の支払いによるものです。

株主資本等変動計算書 当中間期(平成20年2月1日から平成20年7月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本							評価・換算差額等	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計		その他 有価証券 評価差額金
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計				
				別途積立金	繰越利益剰余金					
平成20年1月31日残高	237	167	10	40	463	513	△0	917	△0	917
中間会計期間中の変動額										
剰余金の配当					△79	△79		△79		△79
中間純利益					99	99		99		99
自己株式の取得							△0	△0		△0
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)									0	0
中間会計期間中の変動額合計	－	－	－	－	20	20	△0	20	0	20
平成20年7月31日残高	237	167	10	40	483	533	△0	937	△0	937

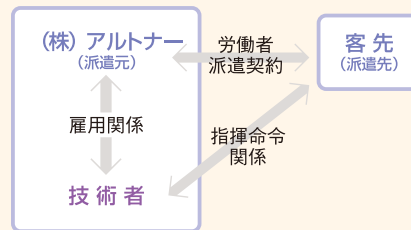
ビジネスモデル

成長著しいアウトソーシング業界において、 トップメーカーのクライアントが求める エキスパート・エンジニアを派遣しています。

企業の経営スリム化、効率化の加速によって、ますますアウトソーシング需要の拡大が見込まれています。当社の顧客である派遣先企業は、雇用上の責任を負わなくても良い上に、社会保険などの経費やそれらの手続きにかかる手間を削減することができ、事業の成長に合わせて、必要となる優れた人材や技術力を容易に活用することができます。

特定労働者派遣事業とは

常時雇用される(派遣時以外も雇用されている)
労働者を派遣する事業です。
アルトナーの正社員である技術者が、
クライアントのもとで技術支援を行っています。



事業一覧

機械設計開発



電気・電子設計開発



ソフトウェア開発



当社のルーツであり、中核をなす分野

当社では、機械系の設計職種は、「機器装置」「機構」「樹脂成型/板金筐体」「解析」の4分野にセグメントしており、2次元・3次元CADを使用する設計開発業務をメインワークとして、自動車関連や家電、精密機器の各メーカーを中心に技術者を派遣しています。自動車関連の業界ではボディーやシャーシ、インパネ、エンジン設計、家電業界では薄型テレビやデジカメ、精密機器業界は半導体製造装置や液晶露光装置などで、これらは当社のメイン設計分野となっております。

あらゆる産業メーカーと密接に結びつく重要戦略分野

当社では、電気・電子系の設計職種は、「電気機器」「電子回路」「半導体」の3分野にセグメントしており、各メーカーの製品において、心臓部となる回路基盤の設計や、電気系の信頼性評価業務をメインワークとしています。デジタル家電分野では、システムLSIの設計需要が増加しているため、当社独自のエレクトロニクス研修を実施し、次々と生まれる顧客の新しい要望にも応えています。また、ここ数年、半導体の需要も増えています。

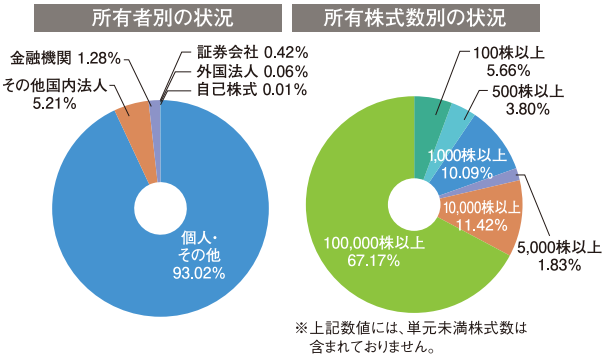
急伸中の情報産業で、さらなる拡大が見込まれます

当社では、「制御ソフト」と「情報処理」の2職種をソフトウェア開発として位置付けております。当社の強みはハードの動作制御を開発する制御ソフト分野であり、自動車関連メーカーやデジタル家電メーカーから大きな期待を寄せられています。レベルの高い技術者を要請されることが多いため、当社内ではソフトウェア開発知識だけではなく、ハードの知識も吸収できるハイレベルな研修を実施しています。

株式の状況

発行可能株式総数	3,000,000 株
発行済株式の総数	882,000 株
株主数	445 名

株式分布状況



会社概要

名 称	株式会社アルトナー
設 立	1962年9月
資 本 金	2億3,708万7,500円
代 表 者	代表取締役社長 関口 相三
本 社	東京本社 〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル10F 大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル2F
事 業 内 容	一般労働者派遣事業(常用雇用型・登録型) (許可番号 般27-020513) 有料職業紹介事業(許可番号 27-ユ-020355) 1)機械設計 2)電気・電子設計 3)ソフトウェア開発 上記分野の設計製作および設計技術周辺業務
社 員 数	859名

役員

代表取締役社長	関口 相三	常 勤 監 査 役	市川 邦彦
常 務 取 締 役	奥坂 一也	監 査 役	横田 成昭
取 締 役	張替 朋則	監 査 役	金井 博基
取 締 役	江上 洋二		

大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
関口 相三	436,000	49.43
アルトナー従業員持株会	156,504	17.74
大阪中小企業投資育成株式会社	40,000	4.54
張替 朋則	32,000	3.63
奥坂 一也	18,000	2.04
大阪証券金融株式会社(業務口)	10,800	1.22
野津 隆	9,400	1.07
岩崎 泰次	6,700	0.76
秋元 博幸	4,900	0.56
アルトナー役員持株会	4,600	0.52

※比率は四捨五入にて小数点第2位にて表記しております。

ネットワーク

事 業 所	●東京本社、東部事業所(東京) 〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル10F ●宇都宮事業所 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り一丁目4番22号 住友生命宇都宮第2ビル6F ●横浜事業所 〒220-0004 横浜市西区北幸一丁目11番15号 横浜STビル6F ●中部事業所(名古屋) 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目14番19号 住友生命名古屋ビル23F ●大阪本社、西部事業所(大阪) 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル2F
テクニカルセンター	●東京 〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル10F ●名古屋 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目14番19号 住友生命名古屋ビル23F ●大阪 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル2F
エンプロイメントセンター	●東京 〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル10F ●大阪 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル2F ●広島 〒730-0014 広島県広島市中区上幟町五丁目11番ブリアンローズ上幟203号 ●福岡 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前一丁目2番5号 紙与博多ビル10F

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで
 定時株主総会 4月中
 基準日 1月31日
 剰余金の配当の基準日 1月31日、7月31日(中間配当を行う場合)
 1単元の株式数 100株
 株主名簿管理人 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部

電話お問合せ 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
 郵送物送付先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
 公告方法 電子公告により当社ホームページ
 (<http://www.artner.co.jp>)に掲載いたします。
 ただし、事故、その他やむを得ない事由によって
 電子公告をすることができない場合は、
 日本経済新聞に掲載いたします。

ホームページ／IRページのご紹介

<http://www.artner.co.jp/ir/ir.html>

●「IR情報」では、財務資料やニュースリリースを
 掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。



エンジニアサポートカンパニー



ARTNER

株式会社アルトナー



この報告書は環境保全のため、
 大豆油インキと再生紙を使用しています。

〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル10F
 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル2F